

「株式会社 姫路シティFM21」

第 62 回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成27年8月25日(火曜日) 午後6時～午後7時

2. 開催場所 イーグレひめじ地下2階 ミーティングルーム

3. 出席状況

1)委員総数 7名

2)出席委員数 7名

3)出席委員の氏名(敬称略、順不同)

大谷 昭仁 岩田 稔恵 大井 義雄 大野 幸一

岸田 直美 衣笠 愛之 宮本 節子

4)欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

なし

5)会社側出席者氏名

二木 英徳 (代表取締役 社長)

寺尾 雅晴 (専務取締役 放送局長)

小幡 博 (営業企画課 課長)

4. 議題

1)事務局説明

- ・ 二木社長より挨拶

2)試聴

- ① 平成27年8月21日(金)「わが町・元気」姫路市職員出演分

3)資料説明

- ① 平成27年7～平成27年8月の取り組みについて
- ② 平成27年9月以降の取り組みについて

4)意見交換

【試聴した番組についての意見】

委員 この番組(わが町・元気)は、良く聴いている。消防局の担当者が日々テーマを変えてわかりやすく説明しているので、市民生活に直結した情報を提供してくれる。本当に良いと思う。

委員 番組を聴いて、火災発生時に自動音声案内をしている電話番号があるとは知らなかった。

また、医療機関の問い合わせ窓口が、119番以外にもあるのも知られていない。

委員 電話番号を教えてほしい。

事務局 テレホンガイドは、289-3000番。火災発生時の自動応答電話で年間約13万件の利用がある。

委員 数字の内訳をわかる範囲で教えてほしい。

事務局 土・日・祝日に診療してもらえる医療機関に関する問い合わせは、年間約1,300件を超え、119による問い合わせが約7,000件、223-0003(消防局代表)への問い合わせが6,500件あったと聞く。

平成26年度、119番への電話は42,000件のあり、そのうち最も多いのが「火災・救急」で約27,000件、「医療機関問い合わせ・まちがい・いたずら」も12,000件報告されている。番組の中でも、119番への電話の中で3割が火災救急以外の電話と紹介していた。

委員 119番に電話した経験があるが、順序立てて誘導してくれたので落ち着いて状況を説明することができた。

委員 消防局の119担当者は、こちらがあわてている状況に対し、落ち着かせつつ的確に誘導してくれるのでありがたい。

委員 最近、居住地以外の市で、土曜日の午後診てもらえる病院を探すの苦労したが、119番でなく消防局の代表電話で教えてもらえるとは、知らなかった。このことを、もっと情報発信するべきだと思う。

委員 119番に間違い電話や緊急性の無い電話が3割もあるとは初めて知った。いたずら電話などで回線がつながりにくくなるのは避けなければならない。

委員 「いざ119番に通報を」という時には、気が動転して119と110の違いを思い出せない場合がある。

委員 119番中、緊急性がないと思われる電話が3割あるのは、抜本的な仕組みを変える必要があるのではないか。番組を聴いてみて、「緊急性のない電話は、119番にはかけないでほしい」と理解した。であれば、もっとそのことを市民にPRしなければならない。現在、わが町・元気の放送は1日4回だが、番組内に毎回「緊急時の医療機関の問い合わせ先」を告知するとか、あらゆる時間帯のリスナーに対応するため、夜間を含めて放送回数を増やす必要がある。

事務局 消防局に対し、番組審議会での意見として、趣旨を伝える。

委員 緊急時の医療機関への問い合わせを周知することは、市民の立場からすると災害の発生状況よりも切迫した問題だと思うので伝えてほしい。

委員 例えば、119体験者や代表番号への問い合わせで解決した体験者の談話を放送できれば、リスナーにとってより説得力がでるのではないか。

委員 高速道路上で病人が発生し救急車を呼ぶとき、位置説明が難しかった。

委員 先日、自動車専用道を走行中、前から逆走してくる車両に出くわした。どこに連絡したらよいのかわからなかった。

事務局 負傷者がでていなければ、警察と思われる。

この会議でいただいたご意見は、消防局に伝えたい。

【事業報告等に関する意見】

午後7時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成27年9月6日

公表内容 審議の概要

公表方法 事務所据え置き、ホームページ(<http://fmgenki.jp>)

自社放送内「FMゲンキからのお知らせ(平成27年9月6日午後3時45分)」

以上